

平成 28 年度 地域ケアプラザ事業報告書

- 1 施設名 横浜市永田地域ケアプラザ
- 2 事業報告

地域の現状と課題について

永田地区は高齢化が進み高齢者支援が急務となっています。地域活動団体や民間企業を含め地域を支える枠組みを整え『住み慣れた街でいつまでも健康で安心して暮らしていただく』街づくりを支援しました。

施設の管理については、限りある資源を大切に使用することを念頭に置き、各職員が節電・節水の意識を持ち、未使用時の消灯や冷暖房の温度設定の管理、水の使い過ぎなどに注意し節制に努めました。また、経年劣化による設備の不具合について、すみやかな修繕を実施し、快適に施設を利用できるよう努めました。

地域ケアプラザとして、地域の特徴やニーズを把握したうえで情報提供を行うとともに、多職種で連携して幅広い分野の問題解決にあたりました。また、地域の様々な会合に参加させていただき顔の見える関係づくり、相談しやすい関係づくりを構築してきました。職員のスキルアップとして、制度改正や新たな援助技術の習得のため、内部・外部の研修や各種連絡会に参加し自己研鑽に努めました。

【北永田地区】

ケアプラザから離れている地域にあるため、様々な会合に参加させていただき関係づくりを行ってきました。地域活動が活発な地域で、ポールウォーキング、歌声広場など地域の問題に目を向けた活動を展開している他、民間企業からの支援を受けて、新たなサロンの開催場所を設け活動の幅が広がっています。

【永田みなみ台地区】

南永田団地は居住者の高齢化や独り暮らしとなるケースが増えています。地域の状況に応じた高齢者見守り隊や高齢者サポート委員会の活動が継続されており支援をしてきました。また、地域活性化の活動として行われている『つながり祭』や『寺子屋みなみ』を支援しました。

【南永田山王台地区】

各団体の活動が活発に行われている地域になります。民生委員と友愛活動員による定期的な会合があり、見守り活動が継続して展開されています。高齢者サロンを展開するにあたり、南永田地域と山王台地域の環境による（山坂）問題で統一したサロンが運営できない状況にあるものの、ケアプラザの貸館利用も多く単位町内会で様々な活動が行われています。今年度は保健活動推進員や南区役所と協働し脳トレウォーキングの支援を行いました。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

<開館時間>

年末年始（12月29日～1月3日）を除く午前8時30分～午後9時（第三月曜・日曜・祝日は午後5時まで）

<建物・設備の保守点検、清掃作業>

委託契約先 国際ビルサービス（株）

委託内容 ①建築物・設備保守点検業務 ②清掃業務（定期清掃・害虫防除）

<警備業務>

委託契約先 京浜警備保障（株）

委託内容 機械警備業務

イ 効率的な運営への取組について

指定管理者として、公の施設を適切に管理し地域ケアプラザが安全に安心して利用できる施設として、地域住民の財産となるように努めた。設備等の故障により、利用者には不便をかけることのないよう今後も維持管理を適切に行った。設備管理における委託業務者を選出するにあたっては、設備管理についての質の確保と、経費削減を同時に行った。また、経年劣化を考慮し、区と連携を図りながら適切に対応した。

ウ 苦情受付体制について

「横浜市内所在施設の苦情解決に関する規定」に則り対応した。

<苦情への対応手順>

苦情の申し出先がわかるように、施設内に苦情受付について受付担当者、解決責任者、第三者委員名等を記載し掲示した。

<苦情解決の仕組みに対する市民への周知方法>

- ① 苦情解決窓口及び担当者、責任者の氏名、第三者委員氏名、連絡先の掲示
- ② 提案や意見を募るためにご意見箱を設置

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

防災に関しては「永田地域ケアプラザ災害時対応マニュアル」「消防計画」を策定しており、年数回の避難誘導訓練・初期消火訓練を実施し、防災意識の向上に努めた。南区との協定による特別避難場所として、地域防災拠点で避難生活を送ることが困難な方々を受け入れることができるように備えている。また、南中学校地域防災拠点の運営委員として訓練や会議に参加し、特別避難場所の周知を徹底した。

緊急時の対応については、初期対応から迅速かつ適切な行動が出来るように、緊急時対応マニュアルを策定し、職員会議や研修時に確認するとともに、防災訓練時に緊急時の対応についても訓練を行った。

南区との協定による災害時特別避難場所として、地域防災拠点で避難生活を送ることが困難な要援護者を迅速に受け入れられるよう対応した。

オ 事故防止への取組について

事故防止策では、「横浜市地域ケアプラザ・事故防止の手引き」を職員がいつでも閲覧できる場所に置き意識向上に努めた。また、「手引き」をテキストとして内部研修で活用し、事故の予防に努め、事故発生時には事故対応マニュアルに則り対応を行えるように備えている。

「防げる事故は起こさない」「事故は未然に防ぐ」を目的とし「ヒヤリハット報告書」を活用することでリスク管理を行いその防止に努めた。

事故発生時は、初動対応を正確かつ迅速に行い、関係機関に連絡、報告を義務づけた。また、再発防止の為に「報告書」の作成を行い、職員全員に回覧する。通所介護では、事故防止の意識が向上するように月例の会議や毎日のミーティングで事故事例の検証や事故予防の啓発を行った。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

法人の「個人情報保護に関する基本方針」及び「個人情報管理規定」に基づき個人情報の管理保護に努めた。個人情報のFAX送信時、郵送時には必ず二人体制でダブルチェックを行い、誤送付防止に努めた。職員全体会議時に個人情報保護の取り扱いについての研修を行う。USBメモリは原則使用せず、個人情報の入ったファイルは、必ずサーバーに保存している。特別に必要と認められる場合を除き（出前講座など）USBメモリの持ち出しをしないように徹底した。

キ 情報公開への取組について

「横浜市永田地域ケアプラザ情報公開規程」に則り対応できるように備えた。情報公開へは施設内受付とホームページ上で積極的に開示した。具体的には、事業計画・報告、収支状況、利用者アンケートの結果、苦情対応結果、第三者評価結果などを誰もが閲覧できるようにした。

ホームページ等の公開により、施設のイベント・教室開催情報や地域情報等を地域に向けて配信できるような情報公開を行った。

ク 環境等への配慮及び取組について

省エネルギー対策として、ゴミの減量化など良好な環境を維持するために、節水や節電を行った。また、コピー用紙の裏面使用の励行やゴミの分別収集など、職員一人一人が「限りある資源を大切にする」という意識を持つようにした。

電力消費がピークになる夏季は、緑のカーテンやすだれを用いて室内温度の上昇を緩和し、軽装を心がけ、扇風機やうちわを使用し、電源などはこまめに切るなど節電に努めた。

ケ 人権啓発への取組について

職員一人一人が『人はかけがえのない存在であること』や『誰もが尊厳と固有の権利を持っていること』を意識し差別や偏見のない職場環境を作った。職員に対し人権啓発に関する研修を実施し、人権問題への理解を深め、人権擁護の徹底を図った。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

地域包括支援センター職員が中心となり、総合事業対象者や要支援の認定を受けた利用者のニーズを把握し、介護予防サービスを適切に受けられるように計画策定及び支援を行った。地域包括支援センターが担当している利用者については、居宅介護支援事業と協力し3職種（主任ケアマネジャー、看護師、社会福祉士）の仕事に影響が出ないように調整しながら対応した。

《取組状況》

要支援1・2、総合事業対象者の利用者は毎月210件前後の担当を行っている。このうち70%程度を居宅介護支援事業所に委託している。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- なし（通常のサービス地域をこえる地域に訪問・出張する場合の交通費は実費）

《その他（特徴的な取組、PR等）》

予防のケアプランについて、地域ケアプラザの配置人員に対応可能な件数が決まっているため、それを超えた一部を外部に委託する場合は、対象の事業所が一定の条件を満たしているか必ず確認している。介護度が変化した際には、利用者の負担がないようなサービスの継続性を重視した。ケアマネジメントについてはできるだけ利用者が分かりやすく、実行が可能な目標を立てられるようにする。また委託先の居宅介護支援事業所とも利用者の介護予防プランを通して継続した支援関係を維持した。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
207	205	207	214	215	216
10月	11月	12月	1月	2月	3月
216	212	216	217	215	216

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤兼務）
介護支援専門員 3名（常勤兼務3名）

《取組状況》

ケアプラン作成にあたっては、利用者の身体の状態や生活環境を考慮し、介護保険制度の理念でもある自立を支援した。また、ケアマネジメントの展開が難しい方（高齢者虐待など）は、地域包括支援センター職員と相談し関係機関と協働して支援した。介護支援専門員常勤換算あたり1名の契約目標を介護・予防含めて39件とした。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

高齢者への虐待など、ケアマネジメントをすぐに展開することが難しい事例には、まず地域包括支援センターと協働し、必要に応じた関係機関へと働きかけ、速やかに状況に応じた支援を展開した。

地域包括支援センターが開催するケアマネジャー向けの研修会等や内部・外部の研修会に積極的に参加し、ケアマネジメントの資質向上に努めた。

介護保険制度が改定する時期には、積極的に情報を収集し適正な運用を実施した。事業所として南区介護支援専門員連絡会「あったかネット南」に協力するとともに、介護支援専門員の横のつながりを大切にしお互いの研鑽を図った。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
80.0	79.0	75.0	77.5	71.5	56.5
10月	11月	12月	1月	2月	3月
53.5	48.0	47.5	44.0	44.0	49.5

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 相談援助（生活指導）等
- 日常生活動作訓練（機能訓練）等
- 健康状態の確認
- 入浴・排泄・食事・送迎等の各サービス

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分（介護処遇改善加算Ⅰ）

（要介護1）	704円（33円）
（要介護2）	831円（38円）
（要介護3）	963円（43円）
（要介護4）	1,095円（49円）
（要介護5）	1,227円（54円）
- 入浴介助加算 54円
- サービス提供体制加算Ⅰ 2 13円
- 中重度者ケア体制加算 49円
- 食費負担 750円

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:35 （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務）
生活相談員	3名（常勤兼務3名）
看護職員	4名（非常勤兼務4名）
機能回復訓練指導員	4名（非常勤兼務4名）
介護職員	19名（常勤兼務3名、非常勤兼務16名）
調理職員	4名
運転手	6名
事務員	1名（常勤兼務1名）

《取り組み状況》

通所介護では、『地域に必要とされるデイサービス』を目標に掲げ、安全で安心して利用できるデイサービスを目指した。利用者のニーズを十分に把握し、利用者一人一人に寄り添った支援を実践した。またサービスの質を向上させるため、定期的な職員研修を実施した。

安定した運営のために、新規利用者の継続的な確保、稼働率の向上を目指した。そのための方策として、積極的にデイサービスの宣伝を行い、既存の関係あるケアマネジャーのみならず、広域の居宅介護支援事業所や地域住民への周知に努め、信頼関係の構築に努めた。また、既存の利用者に対して利用回数の増加や臨時利用などを提案した。キャンセルについてはその理由を分析し、利用者満足度の向上に努めた。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

1日平均28人（予防含む）を目標とした。

利用者ごとの利用状況等の報告をきめ細やかにいき、家族、担当ケアマネジャーとの信頼関係を構築した。

新規申込から1週間以内にサービス開始ができるように努めた。

食事は日々の利用を考慮して毎日違うメニューを提供し、季節に合った食材を適時適温で美味しく食べていただくよう提供した。年1回～2回利用者嗜好調査を実施して、メニューに反映した。また、毎朝送迎時に車の中で当日のメニューを発表し、嫌いなものや食べられないものを確認しきめ細やかに対応した。

レクリエーションについては、全員で行う機能訓練の体操（棒体操やリズム体操など）や週替わりのレクリエーションのほか、自分らしさを大切にして利用者が選んで行う趣味の活動（習字、大正琴など）やゲーム（囲碁、将棋、オセロ、麻雀など）も提供した。また、年間を通じて季節の行事（運動会、夏祭り、敬老会など）を実施し、季節を感じてもらうサービスを提供した。

デイサービスでは多くのボランティアに来ていただけるよう活動を用意している。その人に合った活動をしてもらい、利用者もボランティアも楽しめる地域と繋がりのあるデイサービスを展開した。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
705	727	627	754	763	775
10月	11月	12月	1月	2月	3月
773	787	726	658	674	749

● 介護予防通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 相談援助（生活指導）等
- 日常生活動作訓練（機能訓練）等
- 健康状態の確認
- 入浴・排泄・食事・送迎等の各サービス

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担（介護処遇改善加算Ⅰ）
（要支援1） 1,766円（72円）
（要支援2） 3,872円（148円）
- サービス提供体制加算Ⅰ2
（要支援1） 52円
（要支援2） 103円
- 食費負担 750円

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9:30 ~ 15:20 （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務）
生活相談員	3名（常勤兼務3名）
看護職員	4名（非常勤兼務4名）
機能回復訓練指導員	4名（非常勤兼務4名）
介護職員	19名（常勤兼務3名、非常勤兼務16名）
調理職員	4名
運転手	6名
事務員	1名（常勤兼務1名）

《取り組み状況》

介護予防・日常生活支援総合事業の導入にともない、住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るよう地域包括ケアシステムの一部を担うサービスを提供した。体操やレクリエーションを通じた機能訓練の充実や食事などの日常生活の支援を利用者の意向を踏まえ提供し、いつまでも健康で生活できるよう支援した。また、高齢者ボランティアを積極的に受け入れ、地域での社会参加の機会を提供した。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

要支援利用者の登録目標を1ヶ月あたり30名とした。

利用者ごとの利用状況等の報告をきめ細やかにいき、家族、担当ケアマネジャーとの信頼関係を構築した。

新規申込から1週間以内にサービス開始ができるように努めた。

食事は日々の利用を考慮して毎日違うメニューを提供し、季節に合った食材を適時適温で美味しく食べていただくよう提供した。年1回~2回利用者嗜好調査を実施して、メニューに反映した。また、毎朝送迎時に車の中で当日のメニューを発表し、嫌いなものや食べられないものを確認しきめ細やかに対応した。

レクリエーションについては、全員で行う機能訓練の体操（棒体操やリズム体操など）や週替わりのレクリエーションのほか、自分らしさを大切にして利用者が選んで行う趣味の活動（習字、大正琴など）やゲーム（囲碁、将棋、オセロ、麻雀など）も

提供した。また、年間を通じて季節の行事（運動会、夏祭り、敬老会など）を実施し、季節を感じてもらえるサービスを提供した。

デイサービスでは多くのボランティアに来ていただけるよう活動を用意した。その人に合った活動をしてもらい、利用者もボランティアも楽しめるよう地域と繋がりのあるデイサービスを展開した。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
19	19	16	16	16	18
10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	15	16	18	19	17

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

高齢者・障害・こども等幅広い分野の相談について、地域の特徴やニーズを把握したうえで情報提供を行うとともに、関係機関を紹介、連携して問題解決に取り組んだ。窓口だけでなく、自主事業・会議、地域の会合等さまざまな場面で相談・情報提供していき、地域住民にケアプラザの機能を周知した。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携

毎月第3金曜日に開催している常勤職員による全体会議で、各部門で課題になっていることを協働で解決した。また、その他の各部門間の会議も定例で開催し、ケアプラザにおける業務の共有化と向上を図った。

認知症サポーター養成講座をはじめ、地域のイベント等では地域包括支援センターと地域活動交流で連携し活動を支援した。

区内の他地域ケアプラザを含めて、地域内で連携が必要な事業所とは、メーリングリスト等を活用し、必要な情報の共有化や意見交換を効率的に行えるように仕組み作りを行った。

3 職員体制・育成

地域特性を判断した上で、適切な人員配置を行い、職員と地域の皆様が対話しより良いケアプラザ運営が勤めていけるように尽力した。研修計画に従い、内部・外部研修に参加するとともに、各種連絡会に参加し、常に最新の情報を習得できるようにした。新人職員に対しては、積極的に研修（地域活動交流コーディネーター研修や地域包括支援センターに係る研修など）を行い、民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会の会議などに参加し地域の状況を把握できるよう指導した。また、既存の職員全体会議、地域包括支援センターミーティング、地域活動交流会議、居宅介護支援事業所会議などの中で、情報の共有や課題の解決などを行った。

- ・内部研修（個人情報保護、非常災害時対応、認知症対応、介護予防、感染症対策
身体拘束廃止、リスクマネジメント、虐待防止、法令遵守等）

- ・外部研修（市社会福祉協議会・県社会福祉協議会主催研修会、高齢福祉部会主催研修、行政主催研修等）

4 地域福祉のネットワーク構築

永田地域支えあいネットワーク会議を開催し、身近な地域の課題を話す場として機能するよう努めた。また、地域住民・ケアプラザ・その他関係機関がネットワークに参加することで、地域課題の共有を図り、協力して解決できる場として機能するよう努めた。

支えあい祭りを地域の関係機関と連携して開催し、『顔の見える関係づくり』を実践した。運営は地域を主体とした実行委員会を設置して行うことで、地域と繋がりのある関係づくりを推進した。

南中学校地域防災拠点の運営委員会に運営委員として参加し、特別避難場所としての役割を担えるよう周知した。

5 区行政との協働

地域の方が安心してその人らしい生活を継続させるために地域福祉保健計画・地区別計画、包括的継続的ケアマネジメント業務を南区、南区社会福祉協議会と協働して推進した。地区懇談会や地区社会福祉協議会の総会などに積極的に参加し情報を収集し、永田3地区の地域特性などを踏まえ課題を解決していけるよう支援した。

包括的継続的ケアマネジメント業務の推進では、包括支援センターが中心となり地域ケア会議を開催し、地域での問題点を明らかにして必要な地域ニーズを行政・地域と共有して、地域で課題を解決出来る体制づくりを進めた。

地域の福祉保健活動を推進するため、永田地域支えあいネットワークを南区、南区社会福祉協議会と連携して展開した。年に数回会議を開催し、活動団体が情報を共有し活動の幅を広げるように、顔のみえる関係づくりを構築した。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地域で開催されている高齢者や子育てのサロン、給食会、行事、民生委員児童委員協議会などに積極的に参加し、福祉保健活動に関する情報収集を行い地域課題や活動の支援などを行った。

広報誌「永田通信」や「月ポスター」を定期的に配布し、情報が地域に十分届くように努めた。また、ホームページにケアプラザの事業の情報や地域の活動などを掲載し、幅広く情報発信した。

地域アセスメントシートを継続して作成し、今後地域のニーズに応えるための情報として役立てるため、適宜更新を行った。

支えあいネットワーク会議を開催し、地域課題や地域資源、地域でどのような活動が必要か、情報の共有化を図り、活動団体や支援者同士の連携の推進を行った。

支えあい祭り等において地域で活動している団体の紹介を行った。また、地域住民から実行委員を選出し、企画・運営を地域主体の行事として行えるように支援を行った。

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

地域で活動している福祉保健活動団体に対して積極的にケアプラザの利用をPRし、安定的に活動を支援していけるよう部屋の貸出など支援を行った。貸館の利用状況は、窓口で確認できるほかホームページ上でも公開し利用しやすい環境を整えた。

ケアプラザに訪れる機会のない地域住民を対象とした『お楽しみ講座』を年4回開催した。開催後は、自主グループ化を目指しボランティア活動を行う福祉保健活動団体へと発展できるよう支援した。

永田支えあい祭りでは貸館利用団体にも参加していただき、互いの活動を知る機会を設け新たな活動のきっかけ作りを支援した。

3 自主企画事業

高齢者を対象としたミニデイサービス「なごみ」を運営しているボランティアグループ「なごみ」を支援し介護予防を推進した。

障害のある子供たちと地域の方たちとの交流を通して自立支援をため、知的に障がいのある中高生の居場所づくり「スマイル」を定期開催（月1回）を予定したが、参加者数が少ないため、対象を拡大し「カフェスマイル」と名称を変え開催した。また、障がい児余暇支援企画「バオバブ」については、近年参加者数が減少していることから、地域の動向を踏まえ開催を検討したが、参加者が無かったため開催を見送った。

未就園児の親子を対象とした子育てサロン「たんぽぽ」を定期で開催した。年間を通して、横浜市南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」や永田保育園との共催事業を展開し、子育て支援に取り組む。また、地域で立ち上がった子育てサロン（ぼてと、つくしんぼ、まんま）の後方支援を行った。

ケアプラザと関わりの薄い地域住民を対象とした趣味講座『お楽しみ講座』を開催し、ケアプラザの周知と地域の担い手の発掘等を行った。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

南区社会福祉協議会ボランティアセンターと連携を図りながら、高齢者支援、障害児者支援の中で、制度では対応できない支援に対応出来るボランティアの育成と同時に、負担のない見守り活動や、個別支援を支える地域ボランティア育成を行った。具体的には、ケアプラザで行う事業を継続して行うために、「永田通信」等の広報誌にボランティア募集の項目を載せ、新たな人材の発掘を行った。また、「ちょこっとボランティア」は地域のニーズに応えられるようボランティア募集を継続して行い、登録人数を増やすよう努めた。登録後のボランティアには、定期的な会合の開催をして継続した活動を支援した。ボランティア交流会を年2回開催し、日頃のボランティア活動に対しての労いと意見交換を行い今後の活動を支援した。

よこはまシニアボランティアポイント事業を活用し、高齢者のボランティア活動を支援するため、年2回の登録研修会を行った。

ボランティアの登録人数を増やすために、地域の会合やお祭りに参加しボランティアの募集を行うなど、地域の方々へ継続したPR活動を行った。登録後のボランティアに対しては、定期的な会合の開催と能力のレベルアップを目的とした研修会を開催した。

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談

ワンストップサービスの拠点としての役割を果たすため、福祉、保健に関わる様々な分野の情報収集に努めるとともに、各関係機関と連携していく。一般高齢者、総合事業対象者、要支援者、要介護者、家族、ケアマネジャーなど異なる対象者に対して、3職種（主任ケアマネジャー、看護師、社会福祉士）それぞれの専門性を生かした支援を展開した。相談に対しては訪問を原則として迅速に対応し、的確に状況を把握したうえで必要に応じたサービスの提案や関係機関に繋いだ。また、相談内容の緊急性（虐待など）に応じて区役所と連携しながら支援計画を立てたうえで危機介入を行った。

地域包括支援ネットワークの構築

永田地区の3連合町内会はそれぞれニーズが異なることから、地区ごとに支えあいネットワークを開催した。支えあいネットワークは、柔軟な発想や取り組みができるようなネットワーク作りを心掛け、必要に応じて実際に活動している地域団体が課題解決の場として機能できるようなネットワークを目指した。

実態把握

区役所、関係機関、民生委員、地域住民等からの情報収集や地域の会合へ積極的に参加することによって地域の高齢者の実態を把握した。また、永田地域ケアプラザまで来られない地域住民を対象に地域の町内会館を中心にした『出張相談会』を各地域で開催した。開催にあたっては、他講座と同時に開催し多くの方に足を運んでいただけるように実施した。

2 権利擁護

権利擁護

地域住民や福祉関係者を対象として、成年後見制度や相続・遺言、消費者被害などに関する勉強会や相談会を開催し、制度や法律の普及啓発に努めた。

認知症などにより契約行為や金銭管理が困難な利用者に対して、区役所や社会福祉協議会と連携し、必要に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の紹介を行った。また、成年後見制度の利用を望まれる場合や、制度の利用が必要であると判断した場合は必要に応じた申立ての支援を行った。

高齢者虐待

高齢者虐待が発見された場合には、直ちに区役所に報告を行うとともに、関係機関と連携をとり、チームで被虐待高齢者や養護者を支援した。地域住民等に対し高齢者虐待に関する普及啓発や「介護者のつどい」を定期的に行い、虐待を未然に防ぎ、虐待が起きた場合にも早期発見が出来る仕組み作りに努めた。

認知症

認知症の方や家族が地域で安心して地域で生活出来るように、環境づくりも含めた専門的支援を行った。具体的には『認知症サポーター養成講座』を認知症キャラバンメイト、社会福祉協議会とともに開催し、地域住民や福祉関係者に対し、認知症についての正しい知識や認知症高齢者への対応についての普及活動を行った。また、近隣の小学校に対して、その年代に応じた認知症教育を実践し、地域で認知症を支える環境を整える支援を行った。

3 介護予防マネジメント

介護予防ケアマネジメント力

マニュアルに沿ったケアマネジメント業務を行う。利用者の状況によりケアプランを変更しながら適切に支援した。3職種及び介護予防支援担当者が定期的に話し合いをもち、支援困難な状況にある利用者について事前に解決していった。

関連機関（区役所・民生委員・サービス事業者等）と協力し利用者が自立した生活を送れるよう支援していった。

居宅介護支援事業者へ業務委託を行い利用者のケアマネジメントが滞りなく行えるように、3職種（主任ケアマネジャー、看護師、社会福祉士）で情報を共有した。

介護予防とケアマネジメントスキルアップを図るための研修等に参加し、実践の中で活かしていった。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

地域のインフォーマルに対してケアプラザの役割を周知する機会を作り、永田コミュニティの連携を強化していった。

地域の会合や集まりに参加し、出前講座を開催し地域包括支援センターの役割や介護保険制度等について周知した。

インフォーマルサービスについて、その活動内容や特徴、連絡先などの一覧を作成し、いつでもだれでも利用できるように情報を整理した。地域のインフォーマルサービスに対してケアプラザの役割を周知する機会を作り永田地域の連携を強化した。地域の会合や民生委員児童委員協議会などに参加し、出前講座を開催して地域包括支援センターの役割や介護保険制度等について周知した。

北永田、永田みなみ台、南永田山王台の各地区に対して地域の民生委員とケアマネジャーの交流会を開催した。共通の課題についての話し合いや学習の機会を設け、顔の見える関係づくりを構築した。

認知症啓発事業の継続を行い、地域が認知症に対する理解と協力出来るよう啓発を行った。また学校関係に対しても地域・行政と協働して認知症啓発を継続して行った。

医療・介護の連携推進支援

在宅医療関係者と連携が図れ、利用者を中心とした支援が円滑に行われるように関係を構築していった。永田地区を担当しているケアマネジャーに対して、定期的な勉強会を開催した。永田地域ケアプラザの施設協力医と協働し、専門的知識の向上やケアマネジメント力の向上を図った。

ケアマネジャー支援

ケアマネジメントに関する問題点等の解決を目的に勉強会を行い、それぞれが抱える困難ケース等の支援を行政機関と共に継続して行った。また区や局を通じた情報収集等を行う窓口的役割を担う。現代のニーズに即した情報を収集し、勉強会や研修会、ケア検討会等ケアマネだけでなく多機関を加えた集まりを開催した。

新任ケアマネジャーに対する実習の受け入れを行い、状況に合わせ実習計画を作成し、問題点を解消できるよう支援した。

地域のケアマネジャーからの相談を受け積極的に支援していった。また支援困難事例を抱えたケアマネジャーに対し多職種、多機関と連携をはかり、問題解決に向け支援していく。事業所への定期訪問やケアマネジャー連絡会等で地域包括支援センターが個々のケアマネジャーの相談窓口であることを案内し、随時相談を受けていった。

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

地域包括支援センター・地域活動交流を中心として、地域ケア会議や勉強会を開催し、永田地区の保健・福祉・医療の専門職相互の連携を図り、さらに民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会、ボランティア等のインフォーマルな活動を含めた地域の様々な資源を活用し、高齢者が継続的に地域で生活が送れるように支援した。

介護予防事業

介護予防事業

介護予防・日常生活支援総合事業の導入にともない事業を十分に理解し、高齢者の在宅生活を支えるため、地域の様々な活動団体と協働し支援に努めた。

永田3地区の町内会等の会合や高齢者の集まる場を利用し、民生委員や福祉保健団体の協力を得て介護予防の普及啓発を行った。また、永田地域ケアプラザは坂の多い地域にあることから、介護予防教室などを参加しやすい地域住民の身近な場所（町内会館等）で開催した。

平成28年度 地域ケアプラザ収支報告書

施設名: 横浜市永田地域ケアプラザ

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位:千円)

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護	予防通所介護 第1号通所介護	生活支援体制 整備事業
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援				
収入	指定管理料等収入	15,486	28,767	151	0	0	0	0	5,789
	介護保険収入	0	0	0	6,781	8,215	89,028	6,040	0
	その他	1,218	1,236	0	6,547	431	12,043	612	0
	介護予防ケアマネジメント費	0	0	0	6,547	0	0	0	0
	受託収入	0	0	0	0	239	0	0	0
	利用者負担金収入	0	0	0	0	0	6,788	612	0
	事業活動外収入	0	0	0	0	192	4,694	0	0
	修繕追加分	113	30	0	0	0	561	0	0
	事業費収入	68	0	0	0	0	0	0	0
	事務費収入	154	154	0	0	0	0	0	0
法人負担分	883	1,052	0	0	0	0	0	0	
収入合計(A)	16,704	30,003	151	13,328	8,646	101,071	6,652	5,789	
支出	人件費	10,142	27,781	0	0	12,543	57,659	0	3,055
	事務費	947	608	0	0	1,273	9,789	0	
	事業費	16	341	115	0	19	8,507	0	143
	管理費	4,788	1,273	0	0	104	8,065	0	
	その他	811	0	0	9,641	0	20,561	0	0
	消費税	811	0	0	0	0	0	0	0
	原案作成委託料	0	0	0	4,728	0	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント委託料	0	0	0	4,913	0	0	0	0
	施設整備等積立金 他	0	0	0	0	0	20,000	0	0
	修繕追加分	0	0	0	0	0	561	0	0
支出合計(B)	16,704	30,003	115	9,641	13,939	104,581	0	3,198	
収支 (A) - (B)	0	0	36	3,687	-5,293	-3,510	6,652	2,591	

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等他の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

※ 指定管理料提案額をベースに作成してください。

平成28年度 自主事業収支報告書

【横浜市永田地域ケアプラザ】

事業名	①主な対象者	自主事業決算額					
	②述べ参加人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		委託料	参加費	講師謝金	材料費	その他
永田支えあい祭り 年1回	①地域住民	55,000		33,750		51,994	
	②800名						
	③無料						
子育てサロンたんぽぽ 年20回	①未就園児とその保護者	12,000			6,000	5,993	
	②300名						
	③無料						
永田囲碁・将棋クラブ 年24回	①地域住民	0		0		0	
	②150名						
	③無料						
親子料理教室 年2回	①地域住民	6,000		1,500		5,933	
	②15組						
	③300円						
育児講座 年2回	①地域住民	0		0		0	
	②15組						
	③無料						
障がい者支援企画 「バオバブ」 年2回	①障がい児	5,000		0		0	
	②10組程度						
	③200円						
ボランティア交流会 年2回	①ケアプラで活動している ボランティア	10,000				7,538	
	②活動している ボランティア						
	③無料						
お楽しみ講座 年4回	①地域住民	24,000		26,000	10,000	29,762	
	②50組						
	③200～1000円						
永田地域支えあいネットワーク 年2回	①地域住民	50,000		0		0	
	②連絡会構成員						
	③なし						
障がいを持つ中高生の 居場所作り「スマイル」 年12回	①障害を持つ中高生	25,000		3,300		13,117	
	②5名						
	③300円						
南永田山王台フェスティバル	①地域住民	0	3,500	0		1,058	
	②地域住民						
	③無料						
永田通信	①地域住民					11,655	
	②地域住民						
	③無料						
		¥187,000	¥3,500	¥64,550	¥16,000	¥127,050	¥0

事業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業報告書

横浜市永田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
永田歌声広場 (地域包括)	地域との繋がらない高齢者の参加できる場作りと、介護予防（ロコモ予防体操、口腔体操、栄養の知識）と懐かしい曲を参加者で合唱する 地域ボランティアが行い、活動継続できるよう助言アドバイスをを行った	実施回数：20回 毎月 第1, 3火曜日午前10時から11時30分 場所：永田町上第1, 2町内会館

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
山王台脳トレクラブ (地域包括)	認知症予防、近隣者の交流の場を目指して軽運動を行う コグニサイズ、ウォーキング等 主催は地域住民が行い、活動継続できるよう助言アドバイスをを行った	支援回数：14回 毎月第2, 4金午前10時から10時45分 場所；永田山王台の個人宅駐車場

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
デイサービス なごみ	実施目的：介護保険で非該当の枠におり、日中の居場所が少ない方の居場所として機能させ心身ともに健やかになって欲しいため。 実施内容：高齢者の介護予防・自立支援。65歳以上で歩いてケアプラザまで来られる方。要介護認定がありていない方を対象に第2・4火曜日に実施。	実施回数：22回 実施時期：毎月第1, 3火曜日、午後1時半～3時半

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
子育てサロン 「たんぽぽ」	実施目的：子育て支援 実施内容：未就園児とその保護者を対象にしたサロン。 実施時期：毎月第1木曜日、第4水曜日 ボランティアが子供達を見守り、自由に遊べるスペースを提供。また、概ね月に1度、45分程度のお楽しみタイムを設ける。お楽しみタイムとは、水遊びやクリスマス会など季節に合った遊びを楽しむ。近隣の永田保育園やさくらザウルスから講師を呼んで、協力してもらう場合もある。	実施回数：21回 実施時期：毎月第1木曜日、第4水曜日 午前10時～12時

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
永田囲碁将棋クラブ	実施目的：地域住民の交流 実施内容：大人向けの囲碁将棋クラブ。定年後の男性の居場所が少ないので、囲碁将棋を通すことで、男性の居場所作りとして機能させ今後の福祉保健活動へと発展させていく。	実施回数：24回 実施時期：月2回、毎月第2, 3土曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子料理教室	実施目的：食育 実施内容：未就学児の親子を対象に料理の楽しみを体験し、食の大切さを学ぶ	実施回数：2回 実施時期：6月18日、11月12日

平成28年度 自主事業報告書

--	--	--

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
永田みなみ台地区 認知症啓発事業	永田みなみ台地区で高齢の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、見守っていく方法を考えて行く地域包括支援センターの機能、あんしんネットワーク事業の説明を行う。 見守り隊運営委員会や定例会に参加し、ニーズの把握や情報提供などをおこなう。	実施回数：15回 実施時期：7月5日、8月1日、8月23日、9月14日、9月20日、10月18日、11月2日、11月15日、12月14日、1月17日、1月24日、2月23日、3月8日、3月22日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
お楽しみ講座	実施目的：誰もが気軽に参加できる講座を行う事で、普段ケアプラザを利用していない方に、ケアプラザを知ってもらう機会とする。 実施内容： ・糸を編む ・エキサイトパンチ&トレーニング ・Let`s トライ シュークリーム ・味噌づくり	実施回数：6回 実施時期：5月28日、7月9日、10月27日、11月17日、1月28日、3月11日、

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア交流会	実施目的：ケアプラザで活動するボランティアの交流の場作り。 実施内容：活動しているボランティアとの意見交換会。	実施回数：2回 実施時期：11月25日、3月22日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
障がい児余暇支援 事業 「スマイル」	実施目的：知的に障がいがある中高生の居場所作り。 対象者：南区に在住の知的に障がいがある中高生。 活動内容：子供達がケアプラザでゲームや絵画をして安心して過ごせる時間を過ごす。平成27年度からは、地域のお祭りに参加したり、ボウリング場へ出かけるなどをして、外出する機会を増やしている。	実施回数：9回 実施時期：月1回、毎月第4日曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
障がい児者 支援企画 「バオバブ」	実施目的：障がい児の余暇支援活動。 対象者：南区に在住の知的に障がいがある小学生と中学1年生。 活動内容：学校や家族以外での活動の場として、さまざまな人との出会いの場を作る。	実施回数：1回 実施時期：3月29日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
育児講座	実施目的：地域の子育て支援 実施内容：健康相談、離乳食、他	実施回数：2回 実施時期：7月14日、2月8日

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ASA永田町 認知症サポーター養成講座	実施目的：新聞配達業務を通じて地域を見守る新聞販売店職員を対象として認知症サポーター養成講座を開催。 実施内容：認知症サポーター養成講座に合わせて、地域包括支援センターについて、認知症徘徊高齢者あんしんネットワークについての説明を行った。	実施回数：1回 実施時期：6月19日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
支えあいネットワーク 認知症サポーター養成講座	実施目的：3地区社協の協力を得て、地域住民に広く認知症を知って頂くための機会としての講座を開催。 実施内容：永田地区センターにて開催 地域の商店にも声をかけて、講座への出席の働きかけを行った上での開催。ASA永田町の店長、永田みなみ台スーパーエンゼルの店長が出席。認知症サポーター養成講座に合わせて、地区社協の活動についてを区社協からPR、地域包括支援センターについて、あんしんネットワークについての説明を行った。	実施回数：1回 実施時期：5月26日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
南警察署員対象 認知症サポーター養成講座	実施目的：南警察署員を対象に認知症サポーター養成講座を開催。 実施内容：南警察署にて開催。地域包括支援センターについての説明を包括から、あんしんネットワークについての説明を区役所から行った。	実施回数：1回 実施時期：5月10日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
「消費生活出前講座」+介護に関する出張相談会	永田みなみ台集会所にて、神奈川県県民局くらし県民部 消費生活課から講師を依頼し、講座を開催。 講座終了後に介護の相談を受ける時間を設けた。 実施内容：永田みなみ台1街区集会所にて開催 消費生活相談員から「最近の悪質商法の手口と対処法について」説明。講座終了後に介護等の相談を受ける時間を設けた。（相談者0名）	実施回数：1回 実施時期：6月29日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
六つ川小学校 3年1組キッズサポーター養成講座	実施目的：永田地域ケアプラザ デイサービスで利用者との交流の時間をもっている3年1組の生徒に認知症のこと、高齢者のことを理解してもらえるように講座を開催した。 7月6日（水）8：45～9：30 キャラバンメイト 山本氏による小学3年生むけに講座 地域ケアプラザについての説明を行った。	実施回数：1回 実施時期：7月6日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
サロン永田台 認知症サポーター養成講座	サロン永田台に来ている地域住民の方、サロン運営を行う担い手の方を対象に開催することで、認知症の方も安心してサロンを利用できるようにしていく。11月30日（水）10：00～12：00 サロン永田台自治会館にて、キャラバンメイト 鈴木さん、有山さん、佐藤さんが講座を開催。チーム永田台のメンバーが寸劇を行った。 北永田地区社会福祉協議会の町田事務局長から活動について	実施回数：1回 実施時期：11月30日

平成28年度 自主事業報告書

	の説明、包括支援センターからあんしんネットワークについて、地域包括支援センターについての説明を行った。	
--	---	--

事業名	目的・内容	実施時期・回数
支えあいネットワーク「知的障がいってなあに？」	知的障がいのある人との接し方や制度について学び、知的障がい児を持つ家族の思いを聞くことで、地域住民が障がいへの理解を深める。 知的障がいについて住民の理解を深めるため、地区社協に意見聴取を行い、講座内容を検討。①知的障がい、手帳、制度について、②コミュニケーションのとり方について、③家族の思い、④移動情報センターについて、⑤どんとこい・みなみについての説明を行った。永田地域ケアプラザで行っているスマイルについての説明も行った。	実施回数：1回 実施時期：11月30日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出前講座	介護保険のサービスについて知りたいという要望に応じて、分かりやすい説明を行う。 4月24日永田みなみ台2街区・3街区 老人会（若葉会）で、介護保険のサービスについて説明を行った。	実施回数：1回 実施時期：4月24日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出前講座	地域包括支援センターで受けている相談業務について説明。地域包括支援センターの機能についても説明を行った。5月26日永田みなみ台1街区 高齢者サポート委員会で地域包括支援センターの相談業務について紹介し、地域包括支援センターの機能、介護の相談をうけていることを伝えた。	実施回数：1回 実施時期：5月26日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出前講座	地域包括支援センターで受けている相談業務について説明。地域包括支援センターの機能についても説明を行った。7月3日日永田みなみ台2街区・3街区 老人会（若葉会）で、地域包括支援センターの相談業務について紹介し、地域包括支援センターの機能、介護の相談をうけていることを伝えた。	実施回数：1回 実施時期：7月3日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出前講座	介護保険の話をしてほしいという要望に応え、行った。 7月12日ミニデイサービスなごみ で介護保険のサービスについて説明した。	実施回数：1回 実施時期：7月12日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出前講座	地域包括支援センターの相談業務について紹介し、包括支援センターについて知って頂く。 12月1日 北永田地区老人会の定例会にて地域包括支援センターの相談業務、地域包括支援センターの機能について説明を行った。	実施回数：1回 実施時期：12月1日

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出前講座	<p>地域包括支援センターの相談業務について紹介し、介護予防と介護保険制度の変更点について知って頂く。</p> <p>3/17 南永田山王台地区の高齢者等定期訪問事業連絡会と民児協で講義（介護予防、総合事業、介護保険について）を行った</p>	<p>実施回数：1回 実施時期：3月17日</p>

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
第13回永田支えあい祭り	<p>実施目的：地域の活性化と異世代交流のネットワークづくりのため</p> <p>実施内容：地域で活動している福祉保健活動団体をPRする場として、ブース出店（食べ物、手芸、健康チェック、おもちゃ病院など）、ブラスバンド演奏・ダンベル体操・認知症サポーター養成講座などをおこなった。祭りの運営については、実行委員会形式ですすめ、地域を主体にしておこなった。</p>	<p>実施回数：1回 実施時期：4月17日</p>